

未来社会創造事業

「世界一の安全・安心社会の実現」領域

募集説明会

運営統括： 田中 健一

平成30年 6 月

「世界一の安全・安心社会の実現」領域

社会の変化に先んじて、様々な脅威に事前に対処し、
「誰もが守られていると実感できる社会」の実現を目指します



・テロ



・大気汚染



サイバー犯罪



・ゲリラ豪雨



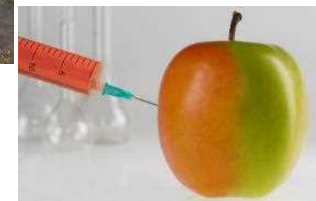
・地震



・水質汚染



・少子高齢化



・食品汚染

等

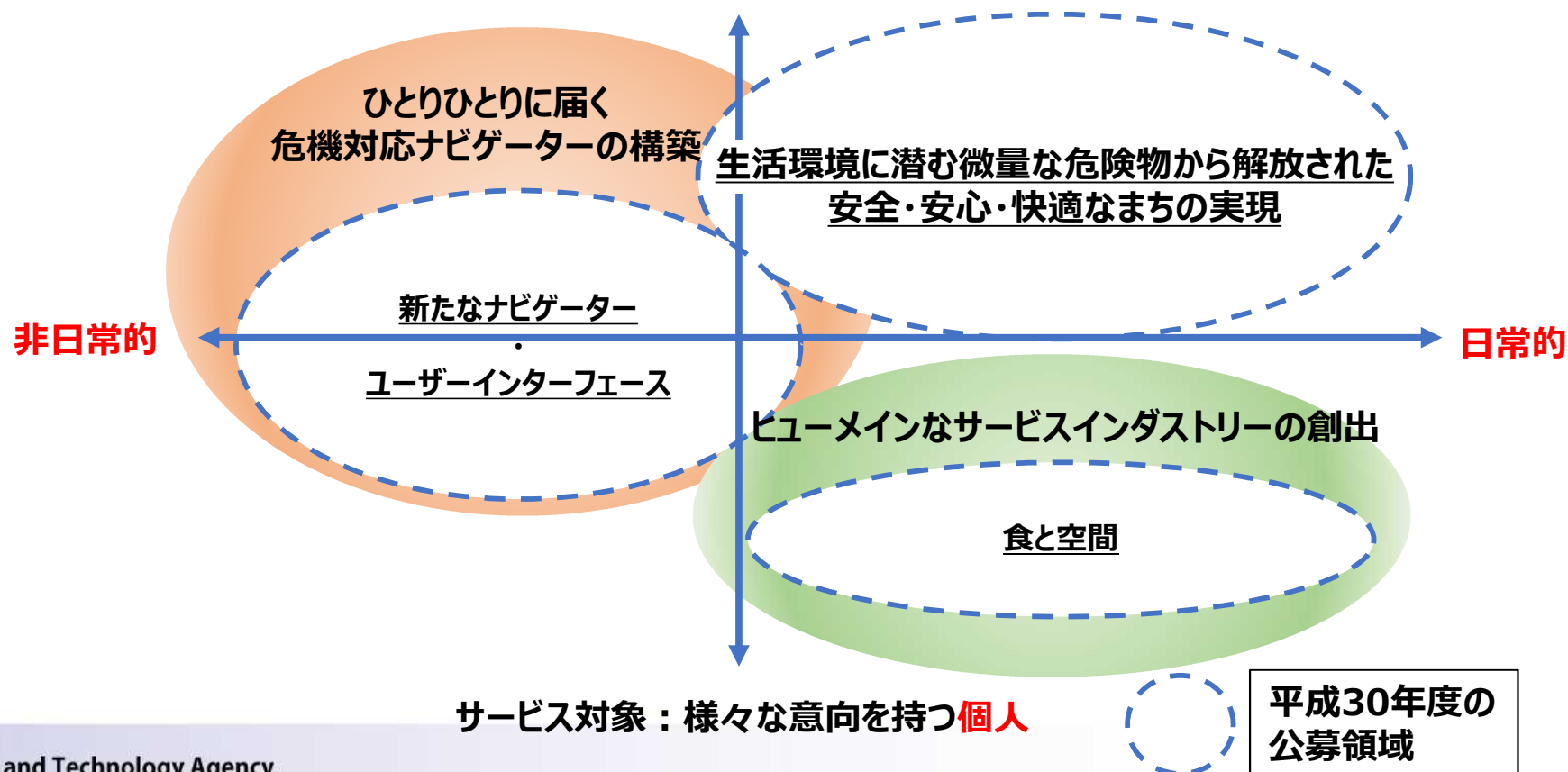
ネガティブな要因を低減・排除して**マイナスをゼロにするだけでなく、**
ポジティブな要因を加えて、快適さ・喜びを追求する**ゼロをプラスに**
する提案も積極的に求めます



安全・安心領域：平成30年度重点公募テーマ

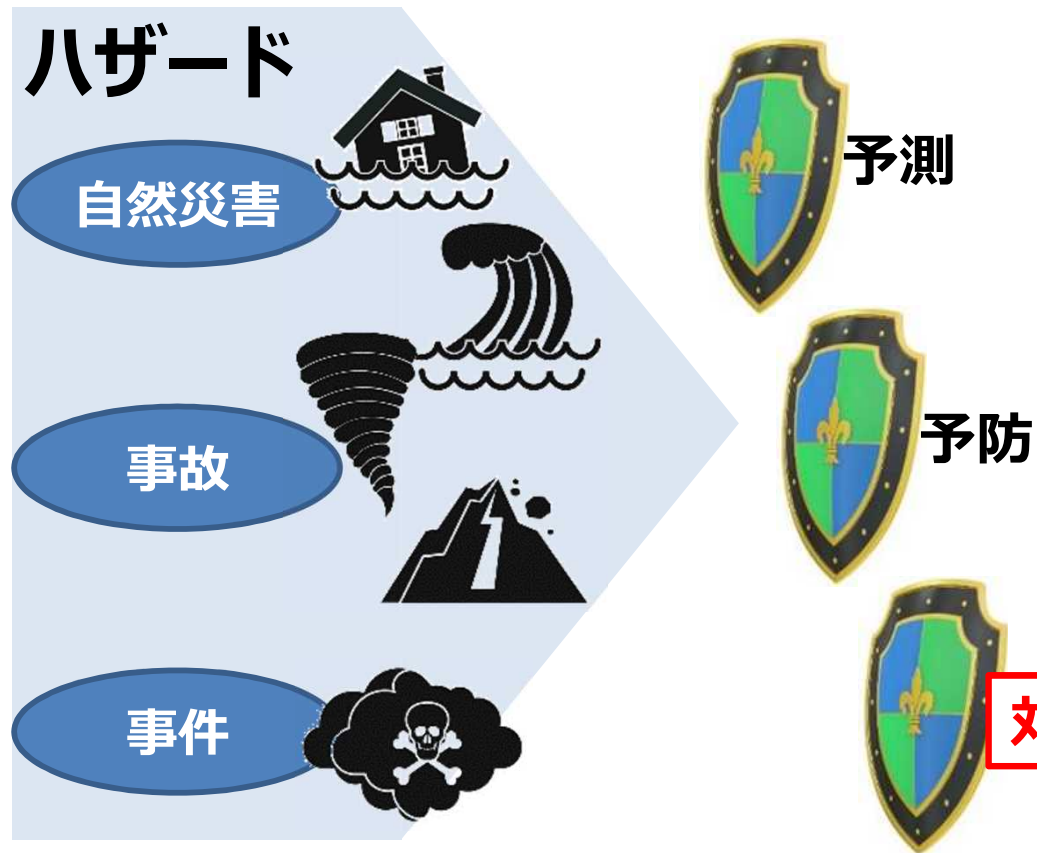
平成29年度 発足テーマ	● ヒューメインなサービスインダストリーの創出 ・平常時の安全・安心の確保を個人に対して提供するもの ● ひとりひとりに届く危機対応ナビゲーターの構築 ・非常時の安全・安心の確保を主として組織に対して提供するもの
平成30年度 新規テーマ	生活環境に潜む微量な危険物から解放された安全・安心・快適なまちの実現 ・平常時の安全・安心の確保を組織・社会（≒まち）に提供するもの

サービス対象：様々な意向を持つ**個人**の集合体（≒まち）



ひとりひとりに届く危機対応ナビゲーターの構築

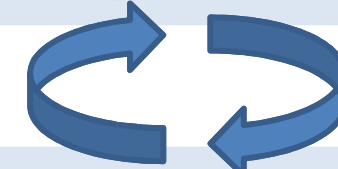
ハザードの予測・予防・対応フェーズのうち、対応フェーズに焦点をあて、組織の判断の精度を向上させるとともに、ひとりひとりに確実に安全・安心を届けるナビゲーターを構築



科学技術により、このプロセスを
高度に支援する技術を確立



組織が判断する



個人が行動を起こす



自分の安全確保
社会の安全確保

- **新たな危機対応ナビゲーターを募集します。**
 - 既採択課題(5件)と同時期に本格研究への移行の審査を実施します。
 - ⑤を必須とし、社会実装をイメージした研究開発を構想して下さい。
 - 対象とするハザードを記載してください。複数もしくはすべてのハザードに実装できるような提案を歓迎します。
- **要素技術として、革新的なユーザーインターフェースを募集します。**
 - ナビゲーターの完成度を高めるような、ユーザー（組織または個人）へ行動オプションを確実に届けるインターフェースを構想してください。
 - **要素技術は提案書様式が異なります。**
- **採択件数は2件程度を予定しています。**

⑤ ①～④を統合する（システム化）

① 各種情報をタイムリーに観測・計測・測定し、収集する
(予測・予防)

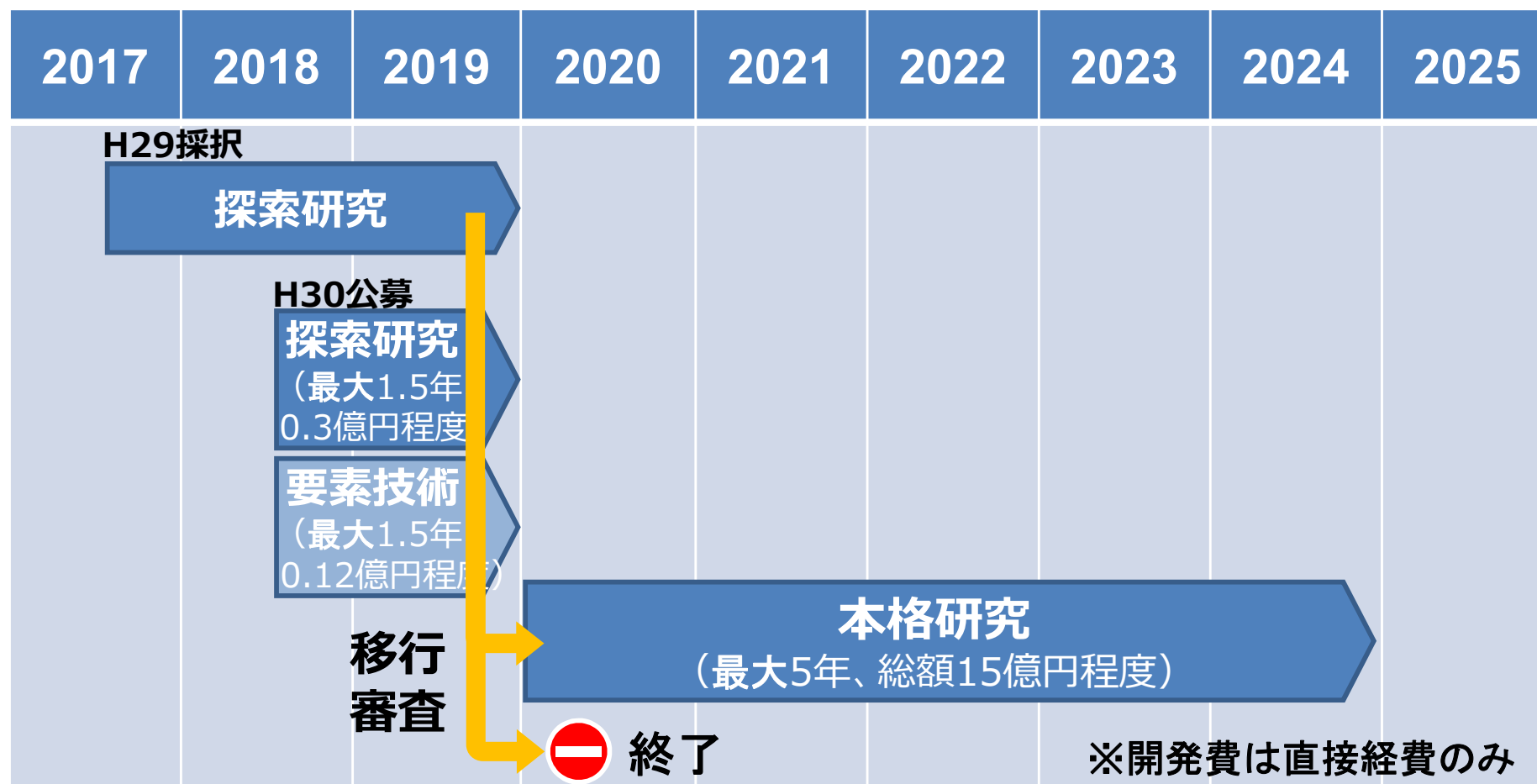
② 異種の情報を統合する
(情報処理)

③ 統合された情報から選択肢を導く
(情報分析)

④ 選択肢をタイムリーかつ確実に組織・個人に届ける
(ユーザーインターフェース)

開発期間・開発費

ひとりひとりに届く危機対応
ナビゲーターの構築



探索研究では、「危機対応ナビゲーター」の実現可能性を見極めるために、本格研究にあたって必要な要素技術の検証、POCの社会・経済インパクトの検証、社会実装にあたっての課題把握ならびにPOC達成後に必要な活動計画等を実施します。
また、複数の**探索研究**を統廃合し、本格研究課題を形成することもあります。

ヒューメイン※なサービスインダストリーの創出

人と人との繋がりを促進することや、人の周囲の環境を適切に制御することなどにより、誰もが安全・安心ひいては快適を実感することができる
ヒューメインなサービスを実現

※ヒューメイン (humane)
人道的、人情的という意味や、
人を高尚にするという意味を持つ。



ネガティブな要因を低減・排除して**マイナスをゼロにするだけでなく**、
ポジティブな要因を加えて、快適さ・喜びを追求する**ゼロをプラスにする**提案も積極的に求めます。

平成30年度は、
「食の安心・食の喜び」
「高付加価値空間」
に関して重点化します。

食の安心・食の喜び

食に新しい価値を
どう付加するか？



高付加価値空間

そこに居るだけで
快適を感じる空間とは？

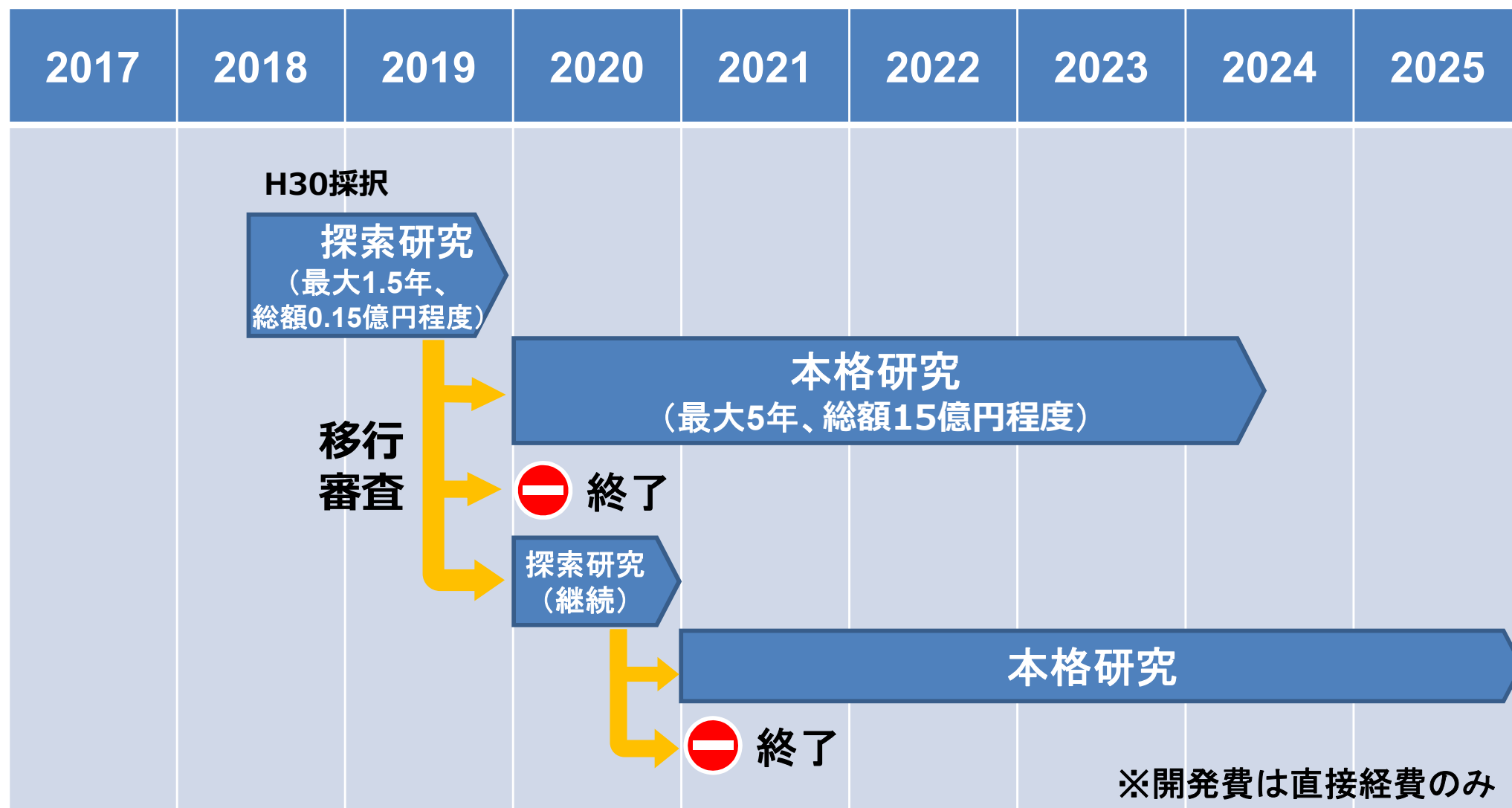


- 科学技術を活用した**新しいサービス**の提案を求めます。
- 高度な科学技術によるサービスが現在の生活に自然に（意識することなく）当たり前存在することを目標とします。
- サービスを受ける側が技術に適応するためにライフスタイルや考え方を変えたり、新技能を習得したりする必要がない
ヒューマンインターフェースを想定します。

提案するサービスが、なぜヒューメインたりうるかを記載してください。

開発期間・開発費

ヒューメインな
サービスインダストリーの創出



「ヒューメインなサービスインダストリーの創出」では、新サービス創出の成功確率を高めるため、探索研究段階において短期間のチャレンジを繰り返して、より良い可能性を探ります。

生活環境に潜む微量な危険物から解放された 安全・安心・快適なまちの実現

生活環境に潜む微量な危険物の検出と除去や回避などの対応を広域で
実現するための研究開発を実施し、そこで暮らす人々が誰一人取り残さ
れることなく安全・安心・快適を享受できるまちを実現



開放空間から微量な危険物を特定
高度な科学技術により対応

たとえば、

検出

ウイルスの迅速検知

除去

ナノサイズの膜分離

回避

気流制御技術

安全・安心・快適なまちの実現

目指すべきビジョン

生活環境に潜む微量な危険物から解放された
安全・安心・快適なまちの実現

研究開発の実施を通じ、さまざまな人が行き交うまちに、
以下の様な**新たな付加価値をもたらす**ことを目指します。

- ① **花粉が飛ばないまち**
 - ② **マスクのいらないまち**
 - ③ **浄水器がいないまち**
 - ④ **いつも海がきれいなまち**
- 等



これらにとらわれる必要はありません！

- ・ 人に直接的に悪影響を及ぼす原因物質の内、主に現在の日本の生活環境に存在し、社会経済的なインパクトが大きいものを研究開発の対象となる危険物とします。
- ・ 危険物を特定（以下御参照）し、その対応と方法論（検出、除去や回避のための科学技術）、その結果どのような社会経済的なインパクトが生み出されるか明確に記述してください。

主な研究開発対象《事例》

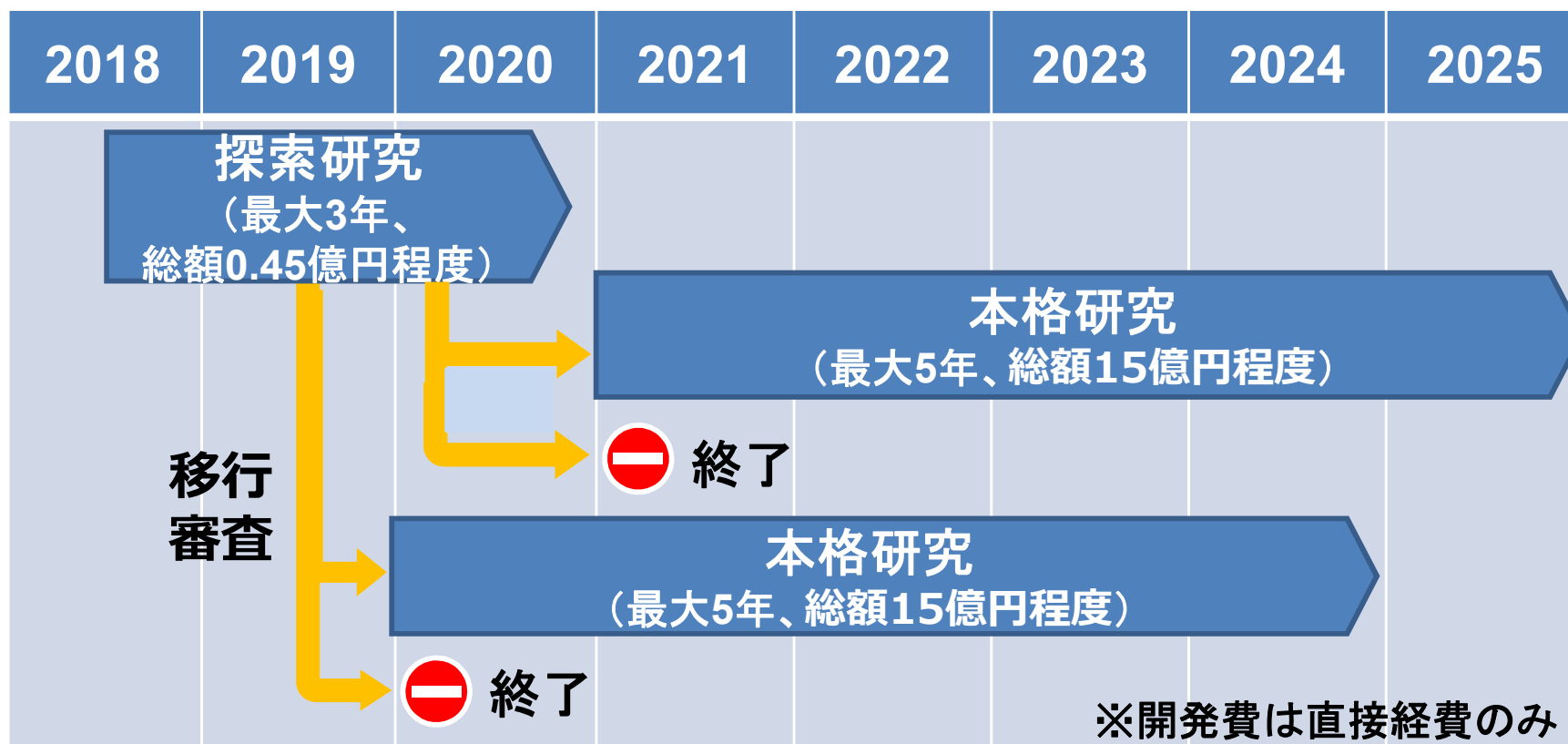
- インフルエンザウイルス
 - ノロウイルス
 - 花粉
 - PM2.5、PM1.0
- 等の大気や水を汚染する原因物質

研究開発対象外《事例》

- エボラウイルス
- トリアセントリペルオキシド（爆薬）
- カドミウム
- マイクロプラスチック
- 液状化要因としての水分

開発費・開発期間

生活環境に潜む微量な危険物から解放された
安全・安心・快適なまちの実現



探索研究では、従来の学術分野に囚われない「異分野融合」、「若手研究者の参画」、「産学連携」の積極推進等の体制の多様性を活用した斬新なアイデアを重視します。また、**探索研究**から本格研究への移行に際して、研究課題に参画する個別のグループや研究テーマ等の組み替え、中止等、体制の再構築を行うことも想定しています。

選考基準（3テーマ共通事項）

1. 目標は明確で概念実証（POC）を目指すものか

2. ハイインパクトかどうか

→本領域ではここを重視します。

「様式2 2. 本研究開発課題のPOCを設定した理由」に、
社会実装イメージを明確かつ具体的に記載ください。

3. 挑戦的かつリスクが理解されているか

4. 研究開発計画・構想が妥当か

研究開発の推進にあたって（３テーマ共通事項）

- 異分野融合や、企業とアカデミアの連携など、研究体制のダイバーシティを活用し斬新なアイデアを取り込むことを重視します。
- 運営メンバーによる研究計画の確認やサイトビジット等を通じて、領域一丸となって、「誰もが守られていると実感できる社会」の実現を目指します。
- 探索研究から本格研究への移行に際しては、研究課題に参画する個別のグループや研究テーマ等の組み替え、中止等、体制の再構築を行うことも想定しています。

**皆様からの鮮烈かつ意欲的な挑戦を
楽しみにお待ちしております。**